令和３年１２月２４日

会 員 事 業 者　各 位

(一社)千葉県トラック協会
会　長　角 田 正 一
事故防止・環境対策委員会
委員長　齋 藤 政 雄

飲酒運転根絶に向けた取り組みの強化について

本年6月28日に、千葉県八街市において、飲酒した運転者の自家用トラックが小学校児童の列に突っ込み、死傷者が出る痛ましい事故が発生しました。

当協会においては、この事故の発生を受け会員の皆様には6月30日付けの緊急要請「運転者に対する安全運転の徹底について」を発出しましたが、全国的に飲酒運転が社会問題として大々的にマスコミなどで取り上げられており、極めて憂慮すべき事態となっています。このため、全日本トラック協会交通対策委員会では、飲酒運転を根絶することを決議いたしました。

これを受け当協会として、11月17日令和3年度第2回「事故防止・環境対策委員会」において下記事項を決定し、以下の取り組みを推進しますので、ご理解ご協力をお願い致します。

記

1　各事業所においては、アルコール検知器を用いた酒気帯びの有無の確認が確実に行える点呼実施体制の再確認と、必要に応じた見直し。

2　各事業所においては、交通安全運動等あらゆる機会をとらえ、事業用トラックが関係した飲酒運転の事故事例を周知し、運転者に対する飲酒運転根絶意識の徹底。

3　（各社ごと）飲酒運転根絶に向けた確実な点呼を行う旨の署名活動。

※具体的取り組みは、別紙事例を参考にしてください。飲酒運転根絶ポスター①はトラック情報1月号に同封（ポスター下部はご自由に記載してください）いたしますのでご活用ください。飲酒運転根絶ポスター①～③の３種類を千葉県トラック協会ホームページに掲載いたしますのでご自由に活用してください。

別紙

飲酒運転根絶に向けた具体的取り組み事例

1　点呼実施体制の再確認と必要に応じた見直し

○　点呼の作業手順を見直し、厳正化を再徹底した。

○　点呼場所を見直し、作業を厳正化した。

○　ドライバーからの聞き取りを増やして疲労度や精神状態が見えてきた。

○　事業所内で兆候に目を配り依存症の疑いがあるものをカウンセリングや専門医に受診させた。

2　交通安全運動等あらゆる機会をとらえ、事業用トラックが関係した飲酒事故事例を周知し、運転者に対する飲酒運転根絶意識の徹底

○　経営陣も参加した飲酒運転防止緊急対策会議を開催した。

○　飲酒運転防止委員会を設置した。

○　「飲酒運転を絶対しない」宣言の日を設定した。

○　飲酒問題について、目に触れる機会、耳にする機会を増やすため、グループ長、リーダーを通じて飲酒運転防止委員会等へ働きかけた。

○　飲酒運転防止ビデオを上映した。

※トラック協会に飲酒運転防止に関する貸し出しＤＶＤが５種類あります。）

3　飲酒運転根絶に向けた確実な点呼を行う旨の署名活動

○　確実な点呼を行う旨を記載した宣言書を作成した。

○　飲酒運転根絶への取り組みを社長名で記載したポスターを点呼場所に掲示した。

4　その他

○　手紙でご家族に対しての協力をお願いした。

※ご家族をはじめ周囲の方々の協力を得ることも欠かせないポイントです。

○　飲酒に関するアンケートの実施や飲酒運転防止に関する標語を募集した。

○　ドライバーの日頃からの飲酒状況を再確認した。

○　**アルコールスクリーニングテストを実施してアルコール依存症（疑い・要注意・依存）の疑いをチェック**した。

上記事例を参考として飲酒運転根絶に向けた取り組みをお願い致します。